

## 設立記念シンポジウム 「鉱山の鹿児島～近代化を鉱山から読み解く～」

本センターは、令和4年11月23日、稲盛会館にて設立記念シンポジウム「鉱山の鹿児島～近代化を鉱山から読み解く～」を開催いたしました。本センターの教育研究の中心である「近代化」を、鹿児島に多く存在した鉱山との関わりから考えるという趣旨です。

シンポジウム前半の講演の部、最初の講演では、鹿児島大学名誉教授の大木公彦先生が「地球からの贈り物 火山の恵み」との演題で、鹿児島が鉱物資源に恵まれている理由や、鹿児島は錫や金だけでなく、鉄や硫黄、タングステンなど多様な鉱物資源を元来有していたことなどを解説しました。

次の講演では、同じく鹿児島大学名誉教授の志賀美英先生が、江戸時代に薩摩藩営として稼働していた鉱山の中で谷山地区の錫山鉱山に焦点を当て、その成り立ちや藩政期の運営の仕組み、近代化における変化などについて解説しました。

第二部のパネルディスカッションでは、講師二人に尚古集成館の松尾千歳館長が加わり、丹羽謙治センター長の司会のもとに議論が深められました。薩摩藩の英国留学生には鉱山開発の技術習得の使命もあったこと、島津斉彬の時代に電気を使い発破をかけ坑道を掘り進める実験が行われていたこと、谷山の錫山では嘉永6（1853）年に新たな鉱床が見つかったが、その10年ほど前には薩摩にイギリスやフランスが接近してきていたことから、当時の大砲に使う錫の鉱脈を見つけたのはおそらく偶然ではなく意図していたことだろうということなど、鉱山と近代化にまつわる様々な話を聞くことができました。

北は北海道から南は徳之島まで、オンラ

イン参加や当日参加も含めると、130名以上の方々にご参加いただきました。

鹿児島大学法文学部附属  
「鹿児島の近現代」教育研究センター設立記念シンポジウム

# 鉱山の鹿児島

近代化を鉱山から読み解く

2022 11/23 水・祝  
14:00～17:15 (開場13:20)

会場：鹿児島大学稲盛会館 (定員 100名)  
同時配信：Zoom ウェビナー (定員 300名)

事前申し込み必須 / 参加費無料

プログラム

1. 学長挨拶 (佐野 輝 学長) 14:00～
2. 法文学部長挨拶 (松田 史夫 法文学部長)
3. 鹿児島の近現代「教育研究センター」長挨拶 (丹羽 謙治 センター長)
4. 第1部 講演 14:15～  
「地球からの贈り物 火山の恵み」  
(鹿児島大学名誉教授 大木 公彦 先生)  
「鹿児島の近代化 薩摩銅山(錫山)探検」  
(鹿児島大学名誉教授 志賀 美英 先生)
5. 休憩 16:15～
6. 第2部 パネルディスカッション 16:30～  
《テーマ》鉱山開発が近代化に不可欠だった理由  
○パネリスト 大木 公彦 鹿児島大学名誉教授  
志賀 美英 鹿児島大学名誉教授  
松尾 千歳 尚古集成館館長
- 司 会 丹羽 謙治 鹿児島の近現代 教育研究センター長
7. 閉会の挨拶 (若井 久 理事)

写真上：「1853年11月23日」谷山地区の地蔵。地蔵は薩摩藩、伊予守屋敷(自)で開山(開山)200年(200年)より  
写真中：谷山、鹿児島市(中野区)。1912年、大正4年(大正4年)に開山(開山)200年(200年)より  
写真下：三井物産(株)の鉱山(三井物産)

応募締め切り ▶ 11/16 (水) 11/20 (日)  
※お申し込み方法については左 QRコードから  
もしくは裏面をご覧ください。  
※定員に達し次第 応募を締め切らせていただきます。

お問い合わせ先 「鹿児島の近現代」教育研究センター  
<https://kadai-kingendai.jp/>  
 ☎099-285-7532 Mail: kingendai@leh.kagoshima-u.ac.jp  
 主催：鹿児島大学法文学部附属「鹿児島の近現代」教育研究センター  
 後援：南日本新聞社

